

1. 単元名 「お店のひみつを見つけて、町のすてきマップを作ろう！」

2. 単元の目標

- 地域にあるお店の工夫やそこで働く人々の願いを理解し、調べたことをすてきマップやチラシに整理してまとめることができる。 (知識及び技能)
- 調べたことを比べたり、関連付けたりして町の良さに気付き、相手に合わせて伝え方を工夫しながら、町の魅力を分かりやすく発表することができる。 (思考力・判断力・表現力)
- 地域の人々の思いや工夫に共感し、高野口をもっと好きになり、その魅力を広げようとする態度をもつことができる。 (主体的に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、子どもたちが慣れ親しんだ「高野口のお店」を教材として取り上げる。「高野口のお店」を教材にすることで、子どもたちは身近な地域に関心を持ち、その活動への意欲を高めることができる。

また、表面的に見えるお店の活動だけでなく、お店の人とのコミュニケーションを通して、お店の人の願いや工夫、地域の人々を支える役割等、普段は気付くことができなかつたことに気付くことができる。

さらに、調べた内容を整理して、すてきマップやお店の秘密を書いたチラシにまとめたり、下級生や上級生、地域の人々に発信したりする活動を取り入れることで、伝える力やコミュニケーション力を高めることができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、第1学年において、地域の方々と関わりながら「秋見つけ」や「昔遊び」などの学習を経験しており、地域の人々に温かく支えられていたことを実感している。その経験から、地域の方への感謝を持ち、自分たちも地域に貢献したいという気持ちが芽生えている。

また、日常生活の中で利用しているお店に対して親しみを感じており、「あのお店に行ってみたいな」「どうしてあそこのお店は安いのだろう」といった関心をもっている。身近な地域の中にあるお店に実際に行き、働く人に直接お話を聞くことを楽しみにしている様子が見られる。

これらのことから、子どもたちは身近な地域を「自分たちの町」としてとらえ始めており、地域のよさや人とのつながりに気付きながら、その魅力を自分たちの言葉で伝えたいという思いを膨らませている段階である。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、「調べる→まとめる→伝える→広げる」という段階的な活動を通して、子どもが自ら発見したことを整理し、まとめや発表につなげることができるように指導を行っていく。また、お店で働く人々の思いにふれながら、地域の良さを感じたり、地域に支えられていることを実感したりできるようにしたい。日常での地域の方々やお店で働く人との関わりから「地域のためにできることはないかな」と少しずつ考え始めることができているため、その思いを尊重しながら、地域とのつながりを広げ、学習を深めることができるように支援していきたい。

特に、インタビューの質問を考える場面や、「すてきマップ」「チラシ」を工夫して作る過程では、子ども同士の学びが深まるように、考えに問い返したり、友だちの意見に目を向けさせたりすることで、対話を促して

いきたい。また、「相手に伝わる工夫」や「お店の良さをどう表現するのか」といった共通認識をもたせ、学びの方向性を共有できるようにする。

また、チラシ作成を通して、調べたことを地域に還元する活動を通して、自分たちも地域を支える一員であるという自覚を持たせる。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点

多様性…お店ごとに工夫や役割が異なることを知り、また、地域にはいろいろな人の思いや願いがあることに気付く。

相互性…お店の人にインタビューする等、お店について調べていく中で、お店とお客さん、お店と地域は支え合いで成り立っていることに気付く。

責任性…調べたことをすてきマップやチラシで発信することで、「自分たちも地域をよくする一員」という自覚を育てる。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーションを行う力

お店の人へのインタビュー活動や、相手に伝わるようにすてきマップやチラシを作る際の交流を通して、自分の考えを作り上げる。

他者と協力する態度

グループでの活動を通して、意見の違いを調整しながら、共通の目標に向かって協力する姿勢を育てる。

批判的に考える力

お店や地域の人々の思いを聞き取る中で、「なぜその工夫をしているのか」「どんな思いがあるのか」など、背景について考える力を育てる。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

相互性の理解

地域の人の働きを知り、自分たちの生活が支えられていることを実感し、自分たちも地域に貢献できる存在であることに気づく。

チラシ作りや発表を通して、住んでいる地域に貢献できることを体験する。

責任性・主体性

地域のすてきを伝える活動の中で、「どんな伝え方をすれば、気持ちが伝わるのか」「地域を良くするために、自分たちのできることは何なのか」について考える。

・達成が期待される SDGs

11. 住み続けられるまちづくり

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①インタビューやまとめる活動を通して、お店の工夫や働く人の願いを理解している。 ②調べたことを整理して、すてきマップやチラシにまとめようとしている。	①調べたことを比較したり、関連付けたりして町の良さを考えようとしている。 ②相手に合わせて伝え方を工夫しながら、町の魅力を分かりやすく表現している。	①地域の人々の思いや工夫に共感し、意欲的に地域の人々と関わろうとしている。 ②読み手が分かりやすいように、高野口の魅力を広げようとしている。

5. 単元の指導計画（全12時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価（△） 備考（・）
1	第1学年での活動を振り返ったり、普段の地域との関わりを思い返したりする。 ・秋見つけ ・昔遊び ・登校時の見守り	・具体的な活動を一つ伝え、その時にどんなサポートをしてもらったのか交流を通して、思い返せるようにする。	ウ① (主体的)
2	タブレットで町の地図を見ながら、知っているお店やよく行く場所を出し合う。	タブレットで学校からお店に行くまでの道のりを示す。	
3	第1回町探検でどの道を通って、どんなことに注目してみるのか話し合う。	タブレットで学校からのルートを全員で確認する。	
4	第1回町探検「高野口にはどんなお店があるのかな」 どんなお店があるのか調べに行く。 ・シャッターが閉まっているお店があった。 ・コロッケ屋さんのお肉が給食に使われているらしい。 ・挨拶をしてくれてうれしかった。	・チェックポイントを事前に伝え、ポイントを見つけたらチェックしたり、町の素敵などところを見つけたらメモをしたりするよう指示をする。	ウ① (主体的)
5	見つけたお店を「すてきマップ」に書く (写真をマップに置く)	・事前に、どんなお店があったのか聞き、お店の写真を用意し、地図に置くことで、マップが完成するようにする。	ア② (知・技)
6	町探検に行く目的やめあてを考える。 目的：高野口を知るため めあて：お店のひみつを見つけて、ちいきの人につたえよう。	・	ア① (知・技) イ① (思判表)
7	インタビューの内容を考える。	・みんながお店のどんな部分を知りたいのかを考えたり、お家の人（地域の人の意見として）に協力してもらったりしながら質問を考えていく。	イ② (思判表) ウ② (主体的)
8	第2回町探検「お店のひみつを見つけよう」	・事前に考えたインタビュー内容をプリントに書き、プリントを確認しながら質問するようにする。	ア① (知・技) イ① (思判表)
9	町探検で見つけた高野口の素敵や、秘密をたくさんの人に伝えるために、どうすればいいのかを考える。	・お店の素敵を見つけて終わりにしないように、見つけた素敵をどのようにして伝えるのか、話し合いながら考えるようにする。	ア① (知・技) ウ① (主体的)

10	すてきマップに見つけたひみつを付け足す。	・マップの周りに、得た情報をまとめていく。(インタビューのプリントを見ながら)	ア② (知・技) イ① (思判表)
11	すてきマップをもとに、地域の人に向けてチラシを作る。	・地域の人に知らせたい情報をまとめられるように、声掛けを行う。	イ② (思判表)
12	町のすてきを伝える。 ・いろいろなチラシを見比べ、どんなチラシがいいか考えるようにする。 ・チラシを読む対象者を考えさせ、内容を考える。	・相手意識を持ちながら、発表できるように声掛けを行う。 ・誰に伝えたいのかを自分たちで考えさせ、発表に対する意欲を高める。	イ② (思判表) ウ② (主体的)

〈成果〉

- ・子どもたちの声や「やってみたい!」という思いをもとに、子どもたちとともに、めあてを考え進めていくことができた。
 - ・インタビューを考える際に、子どもたちが相手意識を持ちながら考えることができていたと思う。
- C: この質問は、みんな知っていると思うから、こっちにするのはどう?
という話し合いが積極的にできていた。
- ・子どもたちが自ら調べたいお店を考え調べていくことで、主体性を育みながら進めていくことができた。

〈課題〉

- ・3年生とともにインタビューやマップ作りを進めていく予定だったが、進捗のズレから別で進めていくことになってしまった。異学年交流の中で、成長できる機会や深められる機会をなくしてしまったこと。
- ・マップの完成形を想像できていない子どもが多いように感じた。見本となるマップや成果物を見せるべきだったと感じる。
- ・ICTを活用してマップを作成したり、ひみつをICTでまとめたりするなど、もっと子どもたちの興味のあるものを使って進めていくこともできたのではないかと思う。
- ・写真を置いてマップを作成する際に(指導計画の5時間目)一定の児童のみが参加する形になってしまい、他人事として捉えている児童がいた。

〈展望〉

- ・マップの周りに調べてきて分かったことをまとめ、理解を深める。
- ・まとめて自分たちだけのものにするのではなく、協力していただいたお店や地域に貢献するためにはどうすればよいかをみんなで考えていきたい。
- ・ESD発表会で地域の方や保護者の方が来てくれるため、そこで学びを発表できるようにする。
- ・学習が終わるときに、「みんな(地域・お店・保護者)のために〇〇ができた!」と1つでも思えるように、まとめに取り組んでいきたい。また、3年生でも学びをいかして学習を進めていくことができるようになってほしい。
- ・地域の人への恩返しとしてチラシを作製するが、その際に、QRコードを作成してできるだけたくさんの人に届くようにしていきたい。